

# 小学生向け『旅行プランゲームで健全な金銭感覚を養う』

— 第6回 — 講師：石村 衛 東京都金融広報アドバイザー

このコーナーでは、全国で活躍している金融広報アドバイザーによる誌上公開セミナーを行います。第6回の講師は東京都金融広報委員会で活躍中の石村衛さんです。今回ご紹介するのは、石村さんが小学生を対象に実践しているゲームを教材にしたセミナー『大切なお金で楽しい旅行プランづくり!』についてです。



## ゲームで「働く・使う・残す」を実践

「お金の勉強」の基本である「収入・支出・資産・負債」について、経済活動の経験の少ない子どもたちが、実感として理解することは、容易ではありません。

私は「子どもたちの金銭感覚を養う」ことをテーマに、小中高生向けのセミナーやイベントを行っています。学年によって内容の難易度は変わりますが、どのセミナーにも共通する点は、ゲームを通じて、子どもたちに「収入・支出・資産・負債」を体験として学んでもらうことです。

今回は、毎年夏、東京都金融広報委員会が参加している子ども向けイベント『丸の内キッズジャンボリー』（主催：東京国際フォーラム）で、2014年に私が実践した『大切なお金で楽しい旅行プランづくり!』を紹介します。

子どもたちがみんなで話し合い、「行ってみたい旅行先を選んで計画を立て」、「旅行資金を積み立てるために働き」、「計画の見直しまでを行う」のが『旅行ゲーム』の概要です。プログラムは「計画にに応じて、必要なお金を意識し」、「働いてお金を稼ぐ」、「得たお金を

使って、行きたい旅行を具体化する」という3部構成の少し複雑な内容ですが、「楽しい旅行に行くために、頑張つて働こう」という一つの目標に向かってチームがまとまり、ゲームをクリアしていく様子を見てみると、子どもたちの潜在能力の高さを実感します。

## 旅行ゲームに挑戦してみよう

『旅行ゲーム』は6名で1チーム、1回に6チームで行われ、小学校3年生から6年生まで、学校も学年もバラバラの見知らぬ子どもたちがチームを作るところから始まります。

最初に行きたい旅行計画を立て、必要な資金を計算します。旅行先はアメリカ、ヨーロッパ、ハワイの3つですが、現地でのオプションルツアーを組み合わせることもできます（資料1）。

ゲームスタート時には、各チームに所持金（1単位は両）が配られていて各チームで管理します。旅行計画に足りない分は、仕事をして稼ぐこととなります。

ここでの仕事とは、ゲームでお金（両）を稼ぐことです。今回は「紙コップピラミッド積み上げ」と「ハンバーガー店」の2種類を行います。

資料1: 旅行プラン

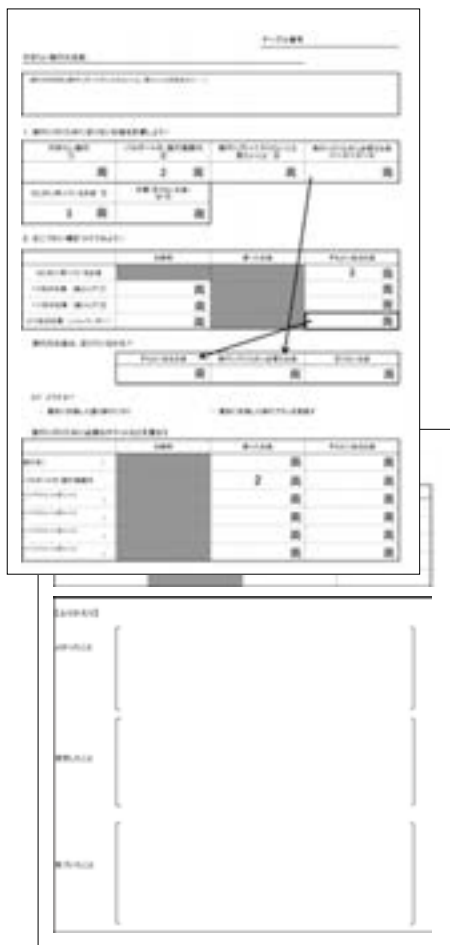
旅行名	①旅行の値段	②パスポート代 旅行保険代	③旅行に行ってやりたいこと、見たいこと (追加で自由に選べる)	
〈アメリカ旅行〉 (6日間)	8両	2両	1. ディズニーランド見学 2. ニューヨークで大リーグ観戦 3. グランドキャニオン大自然観光 4. ケネディスペースセンター見学 5. ハリウッド映画スタジオ見学 6. ナイアガラの滝見学	1両 1両 2両 1両 1両 1両
〈ヨーロッパ旅行〉 (6日間)	10両		1. 大自然! アルプス山脈ハイキング 2. ムーミンのふるさとを訪ねる 3. 世界最速フランス新幹線乗車 4. パリのファッションショー見学 5. ハリーポッターのロケ地見学 6. 世界遺産モン・サン・ミッシェル見学	2両 1両 1両 1両 1両 1両
〈ハワイ旅行〉 (5日間)	6両		1. くじら観察ツアー 2. エステに行くよ~ 3. ブランド品ショッピング 4. ワイキキ水族館見学 5. 巨大ウォーターパーク 6. イルカとふれあい体験	1両 1両 2両 1両 1両 1両

## 石村 衛 (いしむら まもる)

法学部法律学科を卒業後、食品メーカーに勤務。社会人になっても「社会とお金の繋がりを知らない自分自身」にショックを受けたことをきっかけに、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格を取得して独立。現在、FPとしての個人相談業務の傍ら、小中高生向けに「お金との付き合い方と金銭感覚を養う」をテーマとしたセミナーやイベントを開催し、好評を博している。2014年4月より東京都金融広報アドバイザー。著書に「お金ってなんだろう? ~子どもに伝えたい大切なこと~」(PHP研究所) など。

【金融広報アドバイザーとは】金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

## 資料2:旅行ゲームのワークシート



「紙コップ」は、制限時間内にピラミッドを積み上げるゲームです。1回目は個人で5段のピラミッドを、2回目はチームで大きなピラミッドを2つ作ることに挑戦します。個人、団体それぞれのピラミッドの完成度に応じて給料がもらえるため、みんなで力を合わせて目標を達成することで大いに盛り上がりがあります。このあたりまでくると、見知らぬ子ども同士もすっかり打ち解け、仲間になっています。

「ハンバーガー店」は、高級店と普通店のどちらで営業するかをチームで選び、6人が1回ずつサイコロを振り、出た目が最も多かった数字によって給料が決まるゲームです。

高級ハンバーガー店の方がハイリスク・ハイリターンで、高い給料を得られるチャンスがある反面、その確率は低く設定されています。

4両〜12両に設定された給料の中からより多くを得るには、サイコロの「5」や「6」を複数回出す必要があります。一方、普通ハンバーガー店ほどの数字が出ても6両または8両と安定的な給料を得ることができるようになっています。

高学年になると、この仕組みに気づき、チームの中で「無理して高級ハンバーガーで勝負する必要はない！」や「いや、給料がゼロになるわけではないのだから、チャレンジしよう！」といった子ども同士の「作戦会議」も繰り広げられました。

2つのゲーム終了後、手にした給料を合計すると、今回は運良くすべてのチームが最初に計画した旅行に行けることになりました。ただし、もし給料の合計が最初に計画した旅行の費用に足りないときは、チー

ムで相談して計画を変更することにします。何を優先し、何をがまんするのかを考えさせるようにします。

### 大切なお金の使い方

子どもたちには、困ったことがあったときの相談役として1チームに1名の大人が付きましたが、「こうした方がよい」といったアドバイザーは一切言わずに見守っていました。

そんななかで、子どもたちは自然に仲間と力を合わせ、「目標を設定すること」、「労働により収入を得ること」、「お金を管理すること」、「収入に応じて予算を調整すること」、「上手な買物の仕方」といった多くのことを学びました。

セミナーの終盤には、進行役の私が「実際に働いてお金を得ることの大変さ、大切さ」と「余ったお金の使いみち」について簡単な解説を行い、最後のワークでは、今回の旅行計画で「残ったお金の使い方」を話し合っただけで決まっていた(資料2)。

食事、買物、貯金、寄付など、さまざまなお金の使いみちがあることを伝えましたが、話し合いの結果、「寄付」を選んだチームも少なくありません。ここ数年は震災の記憶がある子どもも多く、「困っている人を助けたい」というお金の

の使い方を意識する子どもが多いように感じます。

子どもたちにとっては、ゲームだから「面白かった」という感想が大半ですが、その「遊びながら」が一番大事なのだと思います。自ら参加して、自分で工夫して、そこから何かを見つけてもらえるのはゲームならではの効果です。私は講師というよりは、場を盛り上げる進行ガイドとして、いかに子どもたちに、お金のゲームを楽しい記憶として心に刻んでもらえるかに徹しています。そして将来の成長過程において、どこかで「あんなことしたな」と思い出してもらえようかな、お金の知り、考える「きっかけづくり」をすることが重要な使命だと感じています。

### 今回のまとめ

- ★お金は苦労して働いて稼ぐもの
- ★欲しいものを手にするには何が必要かを考えよう
- ★お金は無駄遣いせず、上手に役立つ使い方を学ぼう